

発刊のあいさつ



JA 岩手県五連
会長 田沼 征彦

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災では、多くの尊い命が犠牲となり、それまで築きあげてきた生活を一瞬にして奪い去ってしまいました。あらためまして、震災の犠牲になりました皆さまに対し、衷心よりご冥福をお祈りいたしますとともに、いまなお避難生活を強いられている方々に対してお見舞い申し上げます。

また、全国 J A グループの組合員や役職員をはじめ、多くの皆さまから「物心両面」にわたるご支援をいただき、復興の大きな支えになったところであり、心から感謝申し上げます。

あの震災から 3 年半が経過しようとしています。これまで、J A いわてグループでは、東日本大震災からの復旧・復興対策と原発事故への対応を事業の最優先実施事項として様々な取り組みを行ってまいりました。

震災発生直後にあつては、食料品や生活用品などの緊急救援物資を被災地に届けるとともに、現地での炊き出し、がれきの撤去など、まさに「協同の理念」を体現した支援活動を行いました。また、県等行政と連携をし、沿岸地域の農業再建・復興対策を実施したほか、原発事故に伴う放射能汚染への対応として、農畜産物の自主検査体制を強化するなどの「食の安全・安心」確立対策にも組織一丸となり取り組んだところです。

そして、今、改めてこの大震災を風化させてはならないとの思いから、J A いわてグループで取り組んできた復旧・復興の主な活動を記録にとどめ、こうした意義ある活動を後世に残し伝えるとともに、これまでにご支援いただいた全国の皆さまに復旧・復興の活動内容を報告することを目的として、東日本大震災「J A いわてグループ復興へのあゆみ」を発行することにいたしました。

被災地では今もなお懸命な復旧・復興作業が行われていますが、原発事故に伴う放射能汚染問題により、しいたけ生産農家にあつては、出荷制限の措置が継続して行われている等、本県農業にとっては未だに厳しい状況が続いております。

このような中、「みんなの力で！がんばろう岩手」を合言葉に、被災地の復旧・復興及び地域の再建はもとより岩手の農業が元気になるよう、県内 7 J A ・5 連合会が手を携えて取り組んで参る所存でありますので、引き続きご支援賜りますようお願い申しあげ、発刊にあたりましてのご挨拶といたします。